

海況速報

昭和63年度 第3号 (No. 3)

昭和63年 9月 2日

北海道立水産試験場

8月の海況

〔道北日本海域〕～(8月上旬)

表面では、20℃以上の暖水域が礼文島北部沖と宗谷海峡へ達していました。しかし、利尻島周辺海域は低温域となっていました。

50m層では、10℃等温線はこの時期でも45°Nまでは達していませんでした。

〔オホーツク海域〕～(8月下旬)

表面では、沿岸部では宗谷岬～知床岬まで20℃以上(最高22℃台)、沖合域では16℃以下の低温域があり、特に猿払北東沖には12℃台の顕著な冷水域が認められました。

中層では、沖合域にマイナス水温を示す中冷水が広く分布していました。50m層でみると、沿岸部では最高18℃台を示しているため、20海里位の間で実に19℃位の水温差がみられています。

〔道東太平洋海域〕～(8月下旬)

表面は、根室半島～釧路沿岸部では14～15℃台と低水温ですが、沖合では広く20～21℃台の暖水におおわれていました。

中層でみると、42°N、146°E付近を中心に暖水塊(50m層：8～9℃、100m層：6～7℃)が分布し、陸棚上にはオホーツク海から流出した道東沿岸流が南西流しており、その中間域を最も冷たい親潮水(50m層：2～3℃台、100m層：1℃台)が南下していました。

〔流況〕～(道北日本海 オホーツク海域)

特徴的なこととして、オホーツク海の沿岸部で宗谷暖流と考えられる非常に顕著な沿岸に沿う流れがみられていました。その流速は1ノット以上で、一部では2ノット以上、最高、宗谷海峡東沖で3ノット台の流速も認められました。

—資料出所—

稚内水試(北洋丸)	8. 1 ~ 3	(道西日本海定期観測)
〃 (〃)	8. 22 ~ 25	(オホーツク海定期観測)
釧路水試(北辰丸)	8. 22 ~ 25	(道東太平洋定期観測)

なお、このたび水試の体制整備に伴い、下記の試験調査船が所属配置替えとなりました。

金星丸 → 函館水試

おやしお丸 → 中央水試

この移動のため今回の観測では、石狩湾からエリモ岬までが欠測となりましたが、次回からは北海道全域をほぼカバーする予定です。

(中央水試 海洋部)

140

142

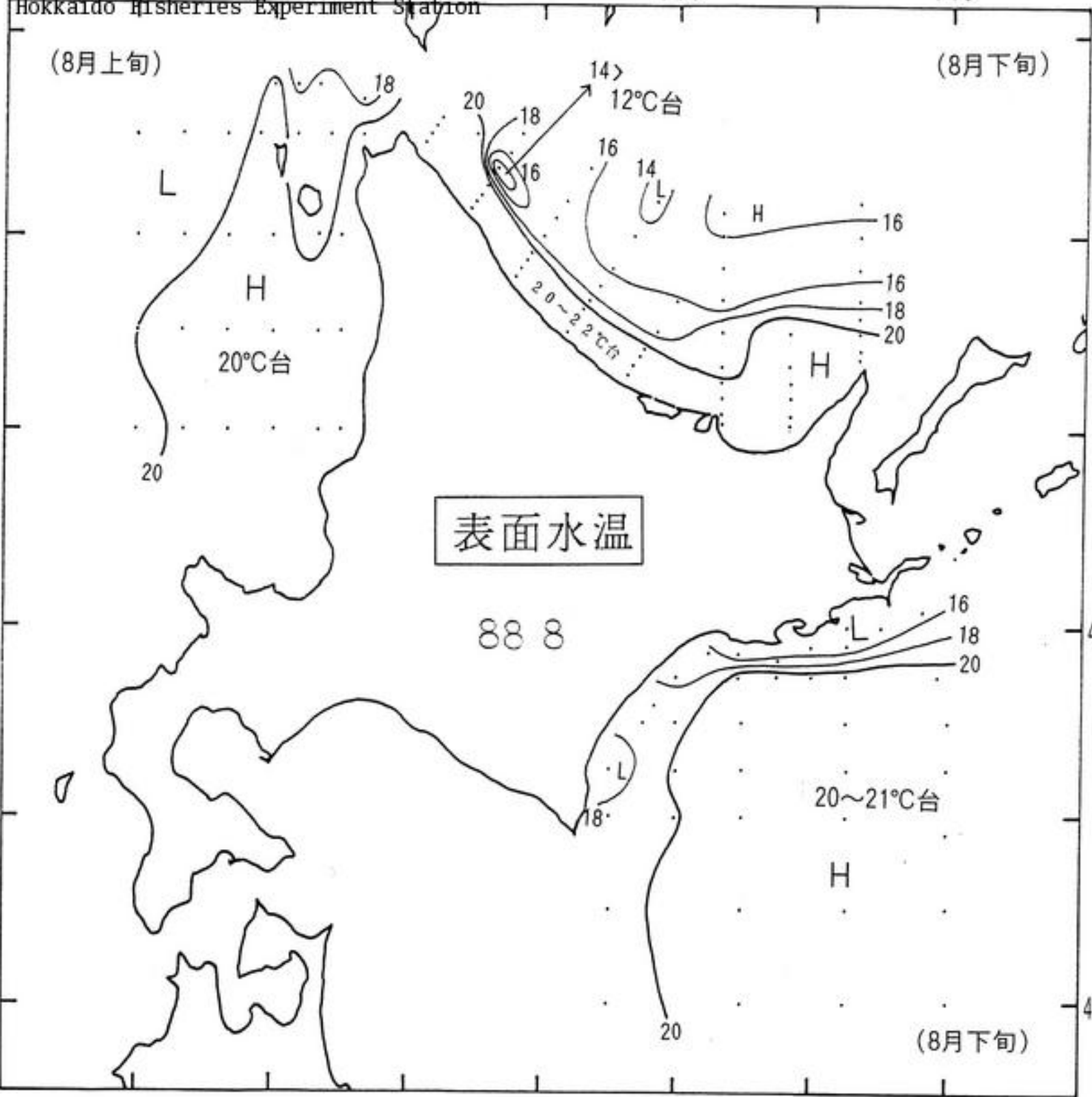
144

146

Hokkaido Fisheries Experiment Station

(8月上旬)

(8月下旬)



表面水温

888

20~21°C台

(8月下旬)

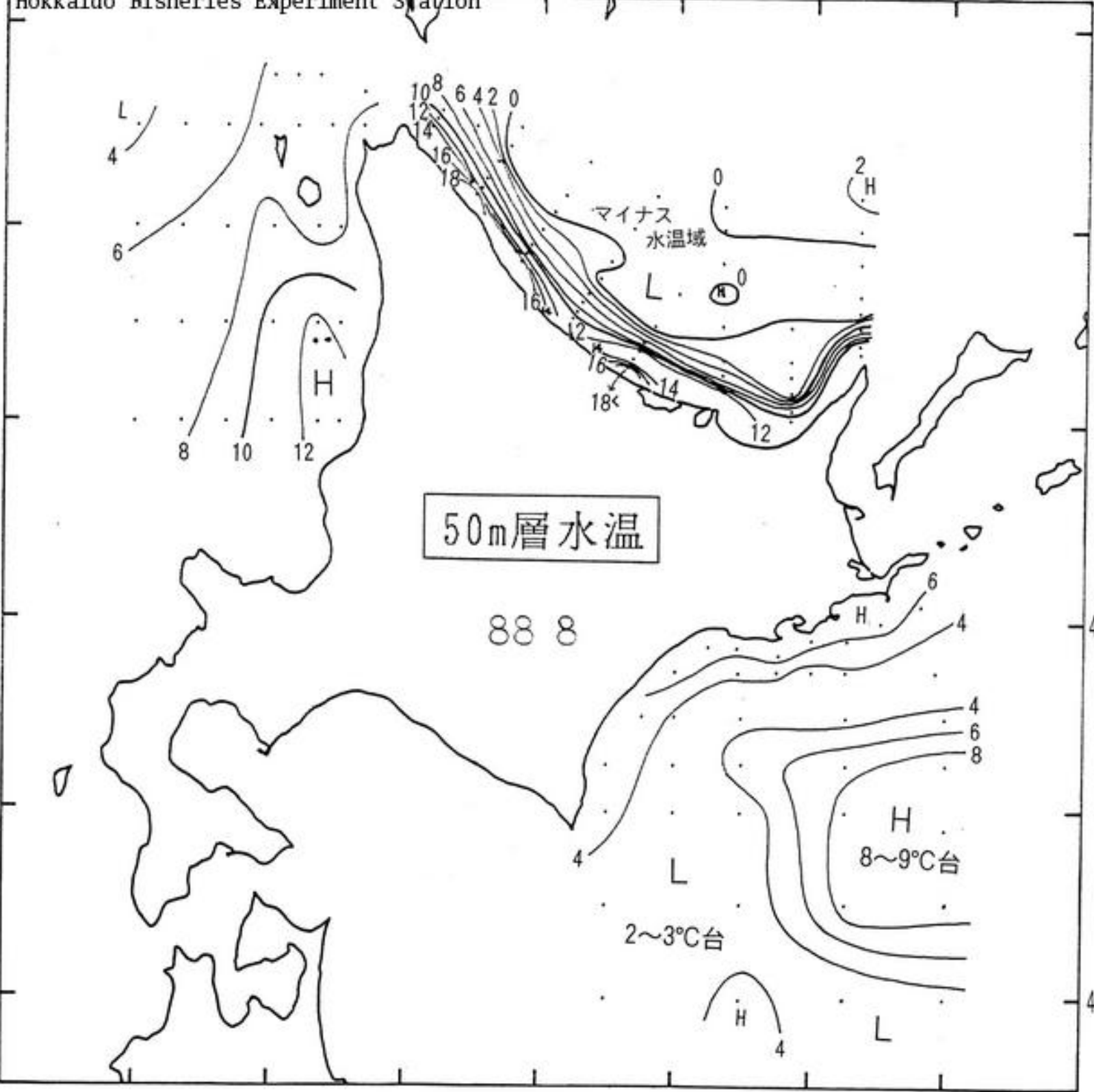
140

142

144

146

Hokkaido Fisheries Experiment Station



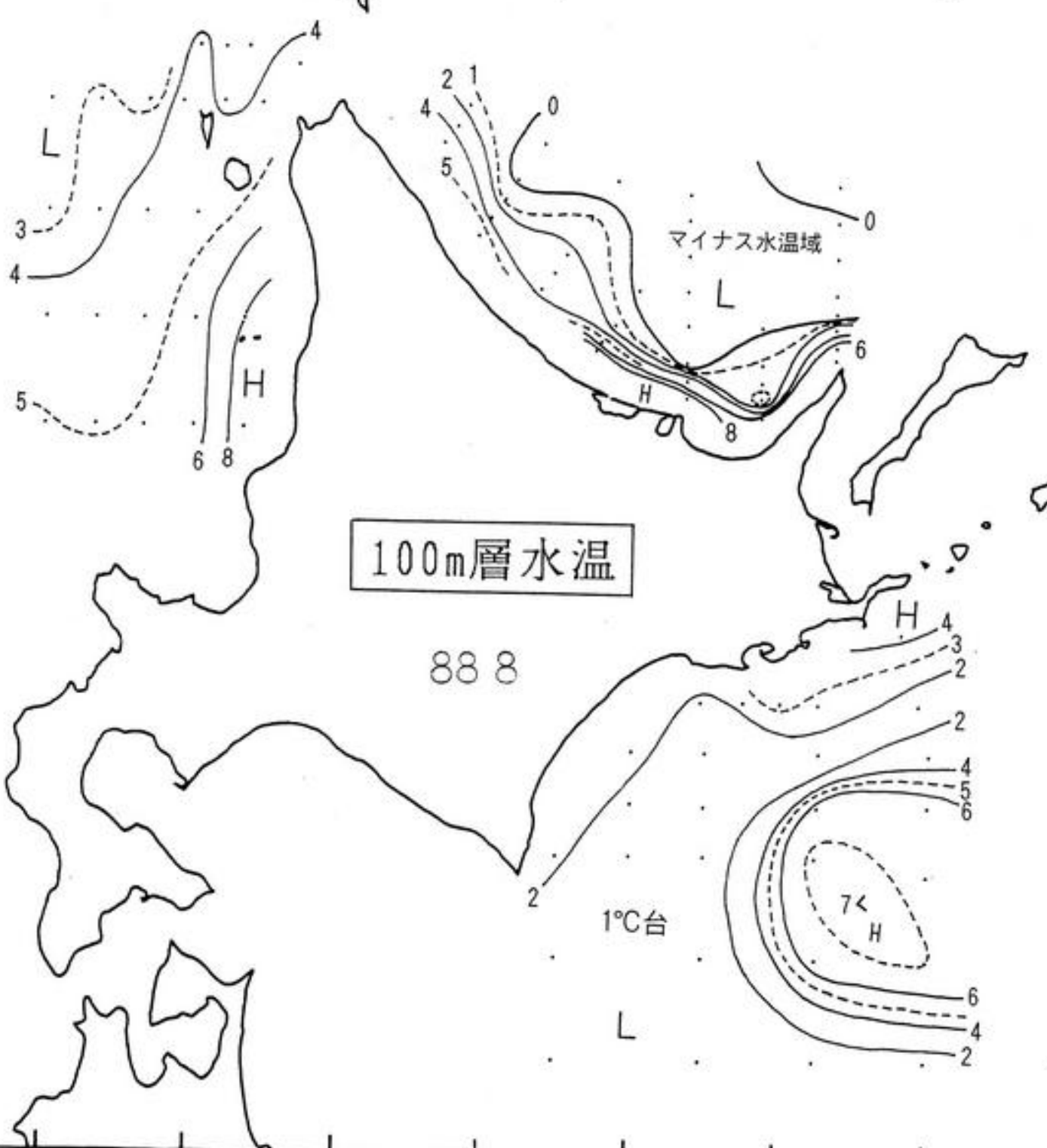
140

142

144

146

Hokkaido Fisheries Experiment Station



100m層水温

888

マイナス水温域

1°C台

7°C台